

急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

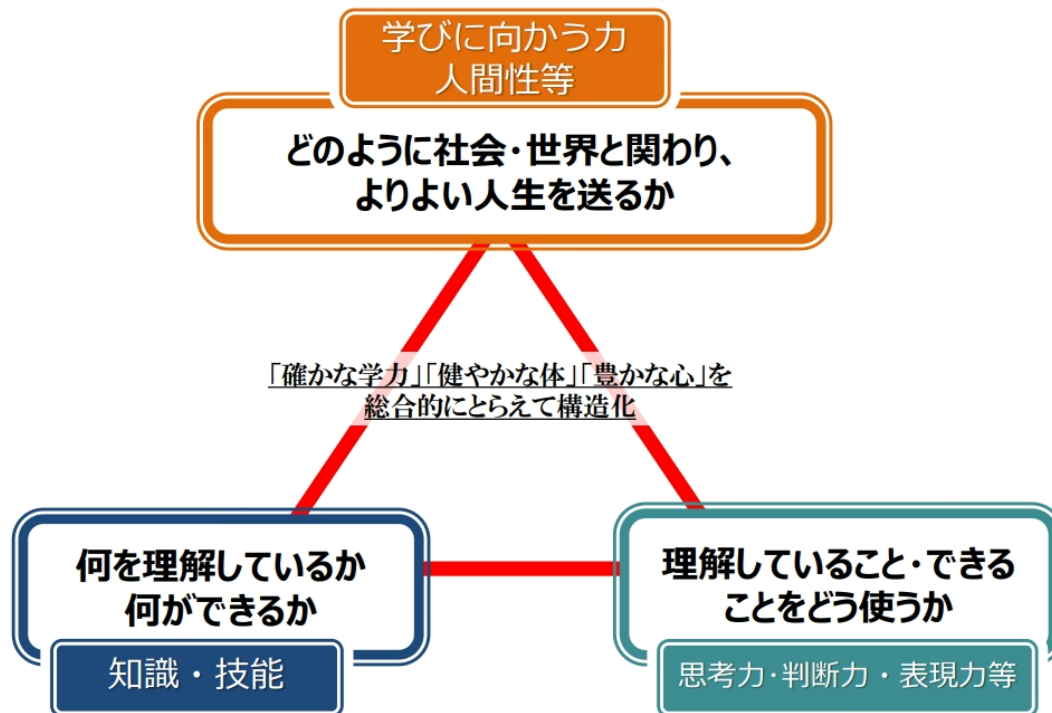
- 「Society5.0時代」の到来
- 先行き不透明な「予測困難な時代」



- ・ 自分のよさや可能性を認識する
 - ・ あらゆる他者を価値ある存在として尊重する
 - ・ 多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越える
 - ・ 豊かな人生を切り拓く
- 持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

「生きる力」を育むために

育成すべき資質・能力の三つの柱



探究的な学びとは

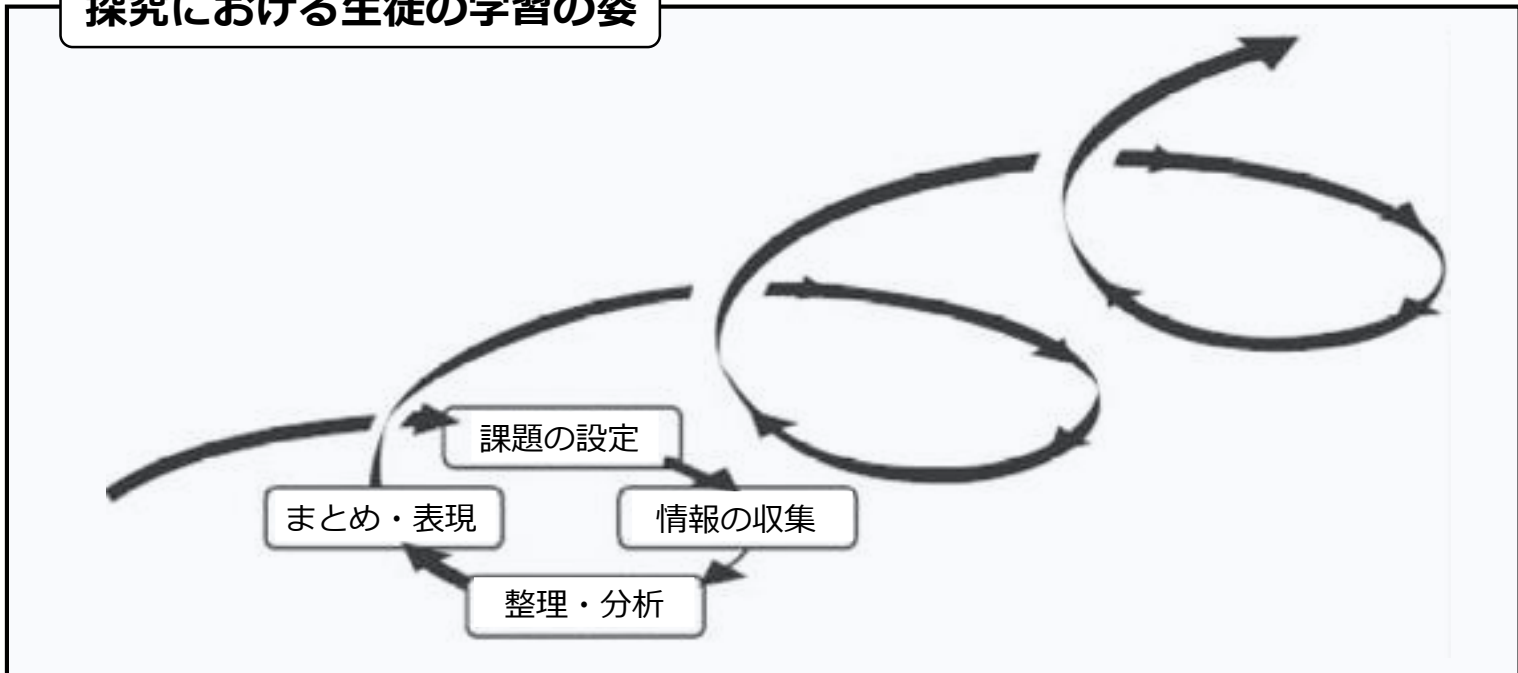
■ 日常生活や社会に目を向け、生徒が自ら課題を設定する。

■ 探究の過程を経由する。

- ① 課題の設定
- ② 情報の収集
- ③ 整理・分析
- ④ まとめ・表現

■ 自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される。

探究における生徒の学習の姿



室戸高等学校の取組

目指せ！持続可能な社会の担い手を育む教育の実践 ～ユネスコ世界ジオパークとともに～

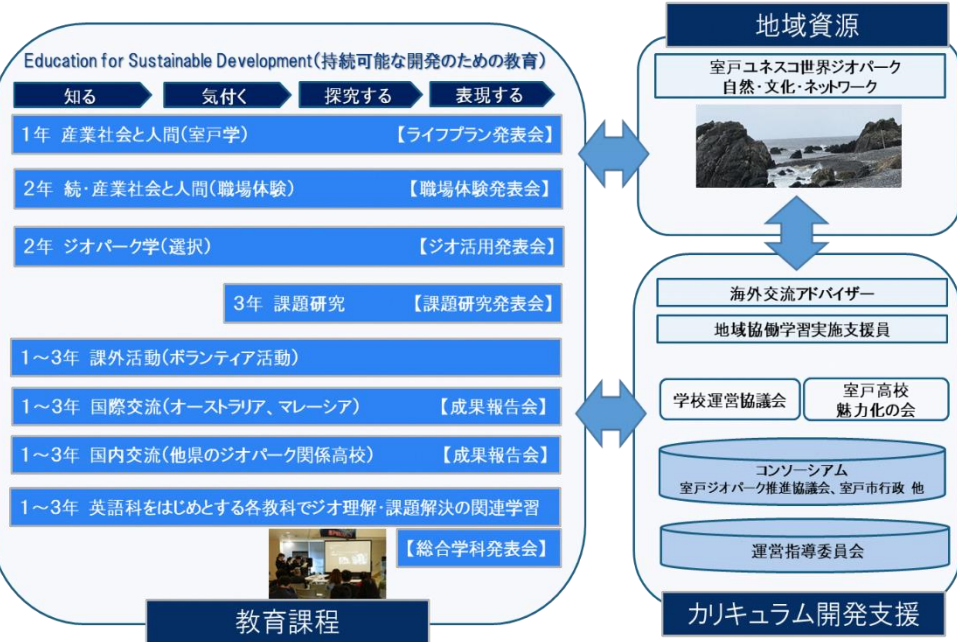
研究開発の背景

本校が位置する高知県室戸市においては少子高齢化が急速に進み、将来、地域を支える人材育成が喫緊の課題である。室戸地域が、室戸ユネスコ世界ジオパークに認定されていることを生かし、その資源を有効活用し、国内外の様々な地域と関わる機会を提供することによって、グローバルな視野で物事を捉え、地域の課題を解決できる資質を持つ人材を育成する。

実施体制

キャリア教育に関わる特色ある科目の取組を発展させ、人とのつながりの深化、地域貢献、地域課題解決学習を行うため、コンソーシアムを組織するとともに海外交流アドバイザー等の配置や他組織との連携強化によってカリキュラム開発に取り組む体制をつかった。また、室戸ユネスコ世界ジオパークの素材、人的ネットワークを活用し、国内外の高校との交流を生徒が積極的に活動する機会を増加させた。

カリキュラムマネジメント 世界的な視野を持って地域で活躍できる人材育成



目標

- 地域との協働による探究的な学びを実現する学習を充実
「産業社会と人間」「課題研究」など
- 地域行事への参加等、すべての教育活動により、地域を活性化し、地域の期待に応える
- 国内外の世界ジオパーク認定地域の学校間との交流拡大
・地元ジオパークの世界ジオ認定に寄与
・さまざまな地域の生徒と関わり、グローバルな視点を持たせる

取組状況

- ・地域の外部講師と協働で特色ある科目の授業実践と授業改善
カリキュラムの見直し
- ・地域の依頼や自主的活動により85%の生徒が地域貢献活動に参加
- ・ロ加高校、糸魚川白嶺高校、マレーシア・ランカウイ高校などジオパークに関係する高校と交流し、地域振興について意見交換する機会が増大
・生徒の成果発表も場も拡大

成果と課題

室戸ユネスコ世界ジオパークの資源である自然、人材、グローバルネットワークを生かし、授業改善や国内、海外交流の場の拡大、成果発表の場の提供を行った結果、生徒の英語の学力向上、地元に関する関心・意欲の高まり、地域貢献活動等、自ら行動しようとする姿がみられたことが大きな成果である。

今後、できるだけ多くの生徒に地元、国内、そして国外の交流活動に参画する機会を与え、課題解決能力を高めることができるように、今後もカリキュラムを見直していく必要がある。

室戸高等学校における探究的な学び

1 ジオパーク学



世界ジオパークや自然、歴史・文化遺産、地場産業について学び、その資源を最大限活用することによる地域の活性化についての方法を考え、提案する。

(例)

シロウリガイの保全活動について、行政に重要性を訴え、室戸市の天然記念物として申請し、承認される

2 ランカウイユネスコ世界ジオパークとの交流



室戸ジオパーク推進協議会の仲介で、マレーシアランカウイジオパーク関係先を訪問（令和2・3年度はオンラインでの交流）し、ジオパークと高校生のジオパークの振興に関連する活動についての意見交換を行う。

(例)

現地の高校を生徒が訪問し、室戸の魅力を発表し、相互交流（令和元年度）
「アースデイ」「国際防災の日」合同イベントの実施（令和3年度）

3 教科横断的な学び

■福祉×ジオパーク

視覚障害者に向けて室戸市の魅力を伝えるために室戸市の観光ガイドツアーを計画し、模擬ガイドツアーを実施

■化学×ジオパーク

「気候変動」及び「世界で働く」の2つに設定し、オンラインにて世界に拠点を置く方々と意見交流

■数学×SDGs

南海トラフ地震が起こったときに、どこに避難をするのかについて資料を読み取り、予測と対策を考察
津波の到達時間が早いことを想定し、高齢者、肢体不自由者、感染症、時間帯や人の動き等、多くの課題について考えていかなければならないことを実感させ、予測と対策から被害を最小限にする手立てを生徒が自ら考える

◆学校で企画した交流会を開催

主催：高知県立室戸高等学校 共催：室戸市、室戸市教育委員会、室戸ジオパーク推進協議会



ユネスコ世界ジオパーク 高校生国際交流会

～持続可能な地域社会の実現のために高校生ができること～

令和4年
2月4日(金)
9:30-16:00
オンライン開催

◆さらなる取組

継続的な協働体制のための柱づくり

ユネスコスクール申請 (令和3年7月)

協働体制の構築

室戸ジオパーク推進協議会と連携協定 (令和3年7月)

地域との連携・協働をさらに推進

室戸高校版コンソーシアムを組織 (令和4年度～)

地域教育魅力化コーディネート事業

目的

○中山間地域の高等学校と市町村・地域（産業界等を含む）とが教育活動や人材育成に関する相互理解を深め、更なる連携・協働の充実・強化を図ることで、高等学校の魅力化・特色化につなげるとともに、地域が一体となって子どもたちを育てる教育環境を整備し、地域の次代を担う人材育成を推進する。

現状・課題

【現状】

中山間地域の高等学校は地元市町村と連携し、高等学校の魅力化に向け様々な取組を行っているが、地元中学生の入学人数の増加には、まだ十分につなげていない。

【現状分析】

客観的な視点から、課題の本質を明らかにするため、令和3年度に（一財）地域・教育魅力化プラットフォームに、実証校となる中山間地域の高等学校の現状・課題の分析を委託。

（分析結果）：高等学校と市町村、地域との連携・協働に限られた人のみで完結。・地域の学びの素材の良さが子どもたちに伝わっていない。 など

【課題】

・「チーム学校」が未完成。・地域にある教育資源を活用しきれていない。・高等学校の魅力化に向けた明確なビジョンが描かれていない。

課題への対応

○高等学校と市町村・地域（産業界等を含む）からなる「地域コンソーシアム」を構築

（取組内容）

- ★教育活動や人材育成の取組等の相互理解
 - ・個々の取組の情報共有、方向性等の確認
- ★高等学校の魅力化、地域で育む人材像の明確化
 - ・ビジョンの策定
- ★高等学校の魅力化や人材育成の取組の検討
 - ・地域にある自然、歴史、文化、産業等の教育資源を活用した取組
 - ・計画の策定、実行、検証

◎地域コンソーシアムの構成員（案）

- 地元市町村の職員（教育委員会を含む）
- 地元産業界
- 地元市町村の小中学校長 など

